

2024年5月21日

三菱UFJ信託銀行株式会社  
Progm at, Inc.  
JPYC株式会社  
KlimaDAO JAPAN株式会社  
株式会社オプテージ

## KlimaDAO JAPAN・JPYC・三菱UFJ信託銀行・Progm at・オプテージの協業による、 国産ステーブルコインのデジタルカーボンプレジット決済活用に向けた共同検討開始について

三菱UFJ信託銀行株式会社（取締役社長:長島 巖、以下 三菱UFJ信託銀行）、Progm at, Inc.（代表取締役:齊藤 達哉、以下 Progm at 社）、JPYC株式会社（代表取締役:岡部 典孝、以下 JPYC 社）、KlimaDAO JAPAN株式会社（代表取締役:濱田 翔平、以下 KlimaDAO JAPAN）、株式会社オプテージ（代表取締役社長:名部 正彦、以下 オプテージ）は、「Progm at Coin（プログマコイン）」基盤を活用して発行されるステーブルコイン（以下 SC）「JPYC（信託型）\*1」を、デジタルカーボンプレジット（以下 D カーボン）決済に活用するための共同検討（以下本共同検討）を開始いたしました。

KlimaDAO JAPAN が開設予定のブロックチェーンを活用した D カーボンマーケットプレイス「KlimaDAO JAPAN MARKET」と「Progm at Coin」基盤が連携し、オプテージが企業向けインフラを提供することで、本邦初となる高い透明性・信頼性・効率性を担保したカーボンプレジットの企業間売買が実現可能となります。さらに、KlimaDAO が既にグローバルで展開しているマーケットプレイス「Carbonmark」と連携し、決済に各種国産 SC を用いることで、クロスボーダーで世界規模の流動性創出を目指します。



### 1. 背景と目的

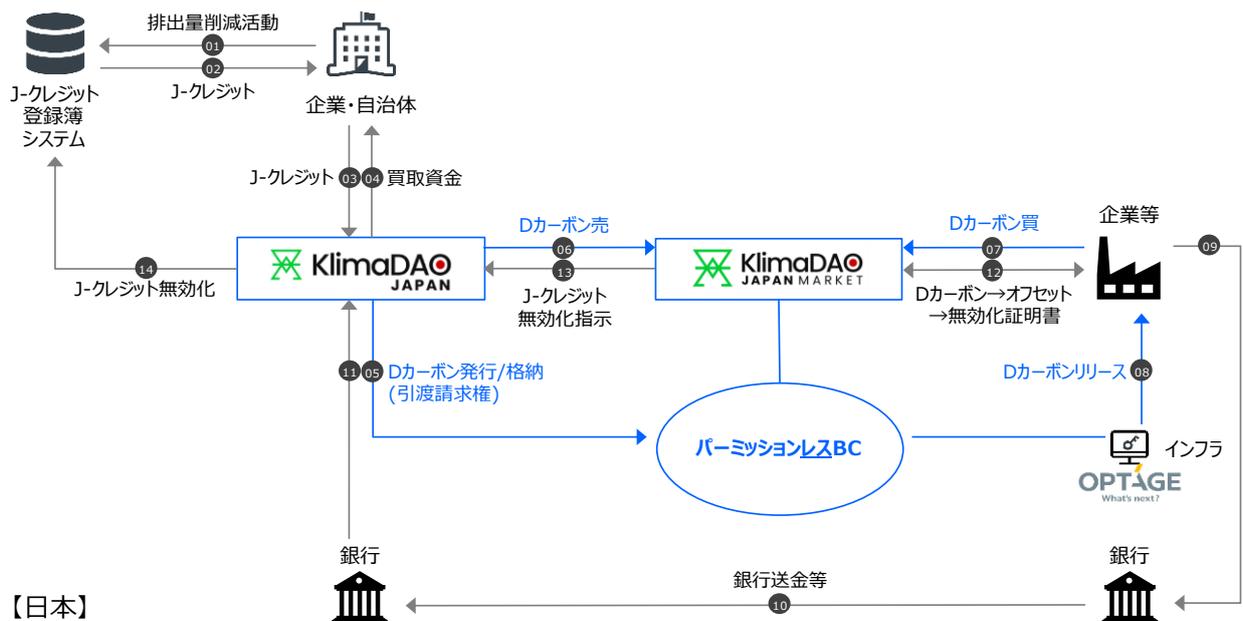
全世界のカーボンプレジット市場規模は約 39 兆円超、そのうち企業や個人が自主的に購入するカーボンプレジットであるボランタリークレジット（以下 VC）の市場は約 450 億円と現時点では規模が小さいものの、2030 年には最大 27 兆円に達する可能性があり、成長ポテンシャルの高い市場

となっています。日本だけでも、カーボンクレジット市場規模は2030年には3,000億円に達するとの予測もあります。

日本では、2023年10月より東京証券取引所がJ-クレジットの売買市場を開設したものの、現時点で売買金額は限定的で、VCのマーケットプレイスは存在はしているものの、まだ開始したばかりで、流動性もそれほど高くありません。そのような中でKlimaDAO JAPANは、既にグローバルで展開されているDカーボンのマーケットプレイス「Carbonmark」の基盤を利用し、J-クレジットおよび日本発のVCに対応したDカーボンのマーケットプレイス「KlimaDAO JAPAN MARKET」を新たに開設し、段階的にグローバルベースの流動性を提供する計画です。

Dカーボンは、KlimaDAO JAPANが企業・自治体から買い取ったJ-クレジット等に対する引渡請求権を、グローバルにアクセス可能なパーミッションレスブロックチェーン上のトークンとして発行するものです。当該ブロックチェーンにアクセスしDカーボンを管理するために必要な企業向けインフラをオプテージが提供し、銀行送金等での資金決済とすることで、まずは企業が取引参加しやすい環境で市場開設する想定です。

【マーケットプレイス・フェーズ1】



本共同検討では、「Progmatic Coin」基盤の開発を主導する Progmatic 社、信託型 SC スキームにおける受託者である三菱 UFJ 信託銀行、「JPYC (信託型)」の発行依頼者兼仲介者である JPYC 社、前述の KlimaDAO JAPAN およびオプテージの 5 社が連携し、「マーケットプレイス・フェーズ2」として、国産 SC を活用した D カーボン取引市場の実現に取り組みます。

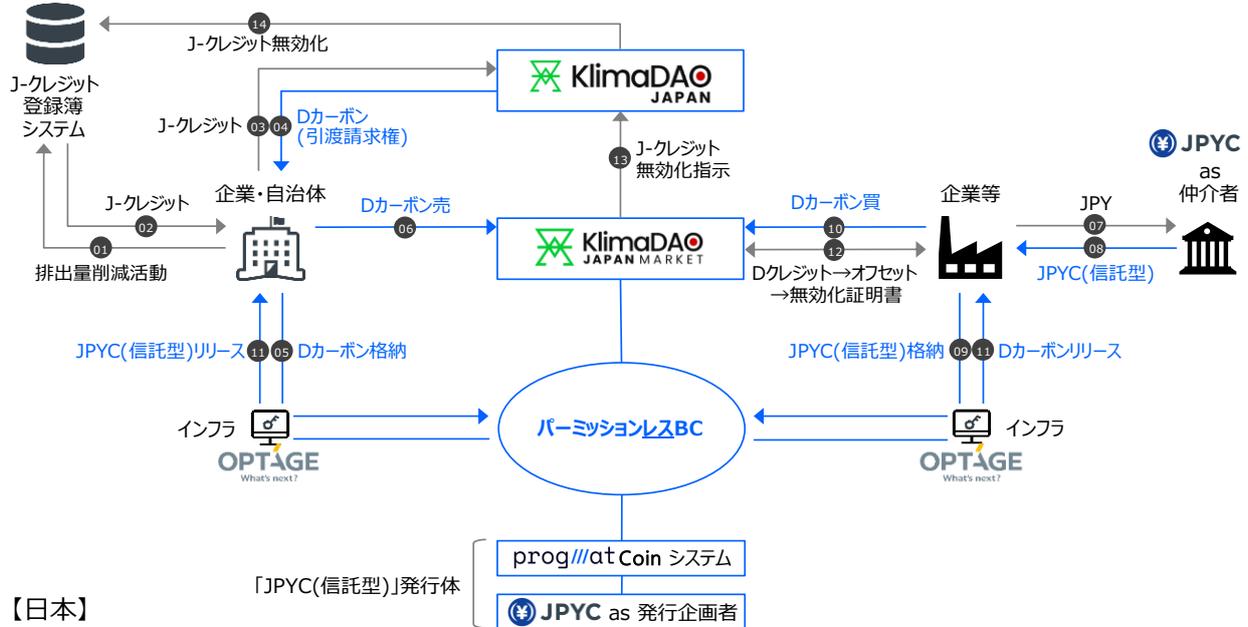
【本共同検討における各社の役割】

参加企業	役割
Progmatic, Inc.	「Progmatic Coin」基盤の開発
三菱 UFJ 信託銀行株式会社	信託型 SC スキームにおける信託受託者 (SC 発行者)
JPYC 株式会社	「JPYC (信託型)」の信託委託者 (SC 発行依頼者) 及び仲介者
KlimaDAO JAPAN 株式会社	SC を活用した D カーボンマーケットプレイスの開発
株式会社オプテージ	本ユースケースに最適化した企業向けインフラの開発

## 2. 具体的な連携内容

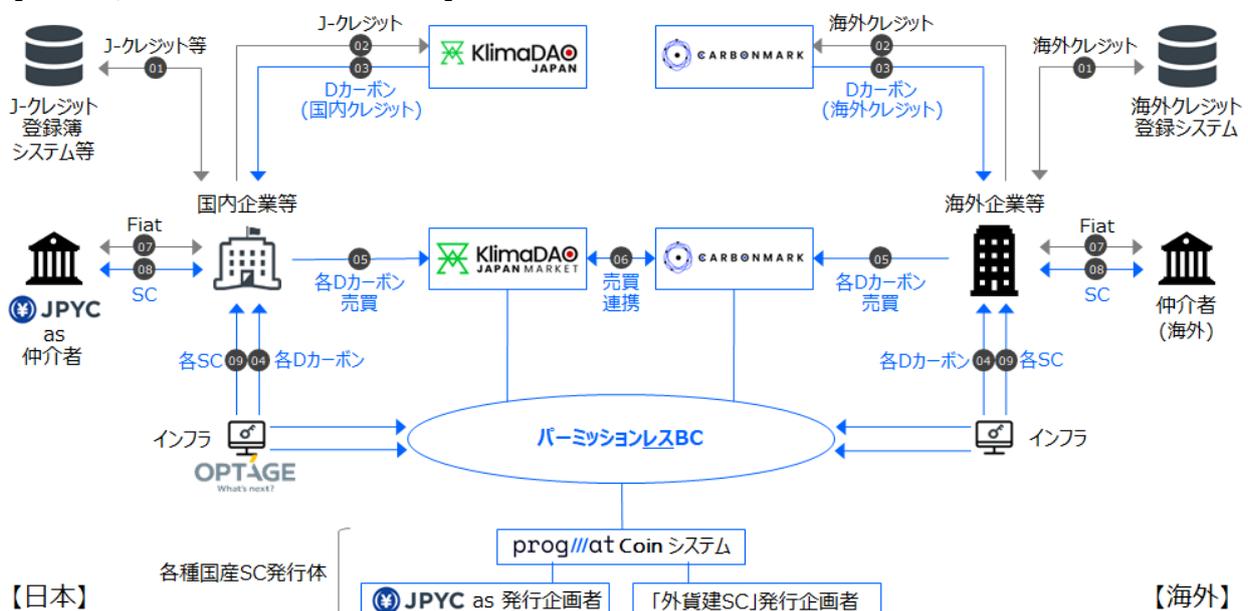
本共同検討で目指す「マーケットプレイス・フェーズ2」では、国産 SC である「JPYC (信託型)」での資金決済に対応し、オプテージが提供する企業向けインフラで D カーボンに加えて SC も取扱可能とすることで、時間の制約なくいつでも参加でき、かつ透明性・信頼性の高いパーミッションレスブロックチェーン上で完結した当事者間取引が可能になります。

### 【マーケットプレイス・フェーズ2】



さらに、クロスボーダーで D カーボンや SC を移転できるパーミッションレスブロックチェーンの特徴を活かし、KlimaDAO のグローバルマーケットプレイス「Carbonmark」と「KlimaDAO JAPAN MARKET」が連携することで、日本発の D カーボンの海外販売等も想定しています。また、カーボンクレジットに加え、非化石証書を含むその他の環境価値についても取引可能な体制の構築に取り組んでいきます。

### 【マーケットプレイス・フェーズ3】



### 3. 今後の予定

「マーケットプレイス・フェーズ 1」は、2024 年 4 月より実証を開始しています。

「マーケットプレイス・フェーズ 2」は、JPYC 社が仲介者として SC を取り扱うために必要な電子決済手段等取引業の登録を完了し、「JPYC (信託型)」の信託委託者としての JPYC 社および信託受託者である三菱 UFJ 信託銀行での提供準備ができ次第、2024 年内の提供を目標としています。

「マーケットプレイス・フェーズ 2」以降、「マーケットプレイス・フェーズ 3」としての海外販売等や、マーケットプレイスを自社で展開したい国内金融機関や事業会社向けの支援を視野に入れています。

以 上

\*1) 「JPYC (信託型)」及び各種ステーブルコイン発行プロジェクトの全体像に関する解説は以下をご参照  
解 説 記 事 : <[https://note.com/tatsu\\_s123/n/nf6d1da39abb8](https://note.com/tatsu_s123/n/nf6d1da39abb8)>

<別紙>

1. 各社の役割・概要

(1) プラットフォーム「Progmatic Coin」開発者

商 号 : Progmatic, Inc.

代 表 者 : 代表取締役 Founder and CEO 齊藤 達哉

U R L : <https://progmatic.co.jp/>

(2) 信託型 SC スキームにおける信託受託者 (SC 発行者)

商 号 : 三菱 UFJ 信託銀行株式会社

代 表 者 : 取締役社長 長島 巖

U R L : <https://www.tr.mufg.jp/>

(3) 「JPYC (信託型)」の信託委託者 (SC 発行依頼者) 兼仲介者

商 号 : JPYC 株式会社

代 表 者 : 代表取締役 岡部 典孝

U R L : <https://jpyc.co.jp/>

(4) SC を活用したデジタルカーボンマーケットプレイスの開発

商 号 : KlimaDAO JAPAN 株式会社

代 表 者 : 代表取締役 濱田 翔平

U R L : <https://www.klimadao.jp/>

(5) 本ユースケースに最適化した企業向けインフラの開発

商 号 : 株式会社オプテージ

代 表 者 : 代表取締役社長 名部 正彦

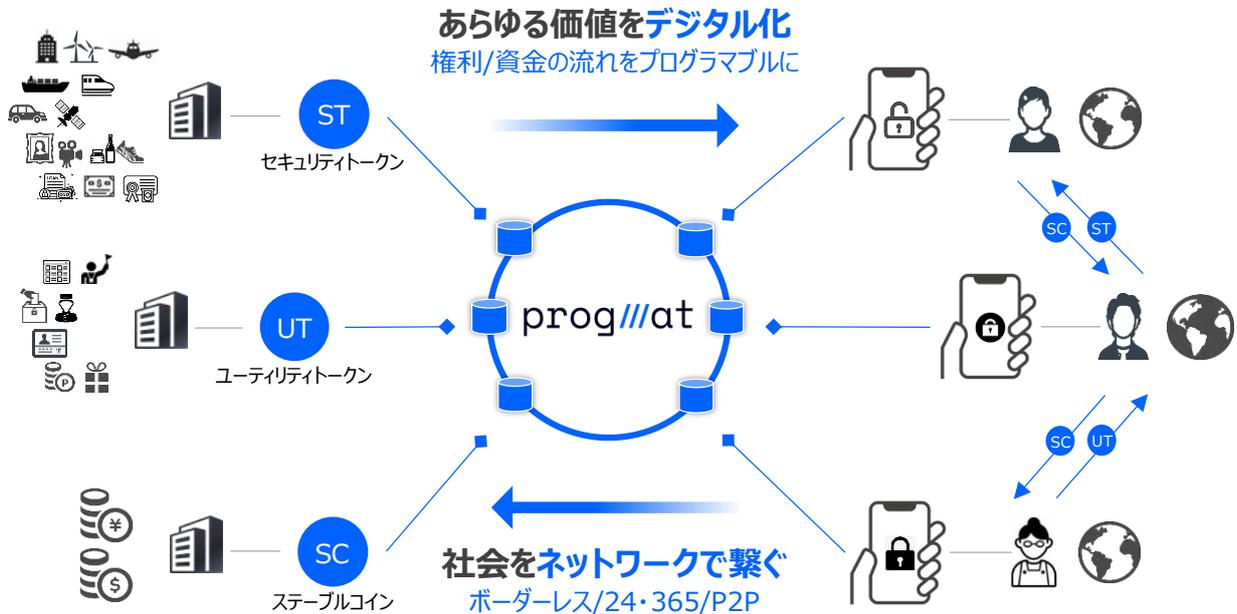
U R L : <https://optage.co.jp/>

◆ 「Progmata (プログラマ)」について

Web サイトおよび解説記事を公開しておりますので、以下 URL からご覧ください。

Web サイト : <<https://progmata.co.jp/>>

解説記事 : <[https://note.com/tatsu\\_s123/n/n03a291fa52ab](https://note.com/tatsu_s123/n/n03a291fa52ab)>



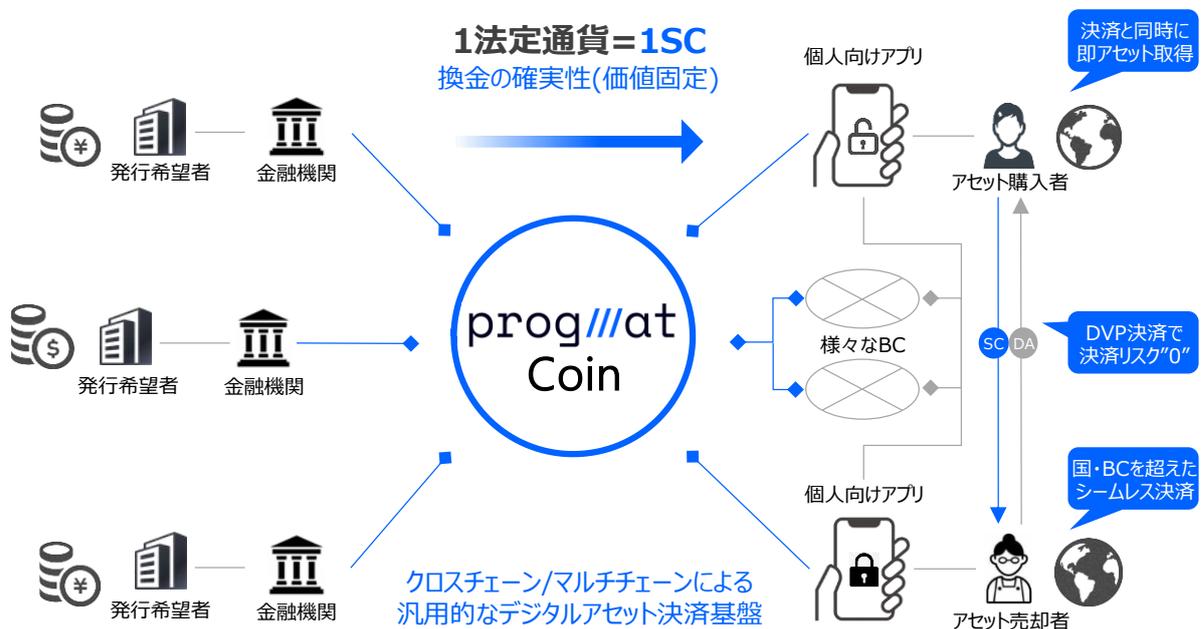
◆ 「Progmata Coin (プログラマコイン)」基盤について

「Progmata Coin」基盤は様々な SC を発行・管理するためのインフラです。

資料を公開しておりますので、以下 URL からご覧ください。

資料 : <<https://speakerdeck.com/progmata/sc>>

解説記事 : <[https://note.com/tatsu\\_s123/n/n406e5cfa9f1c](https://note.com/tatsu_s123/n/n406e5cfa9f1c)>



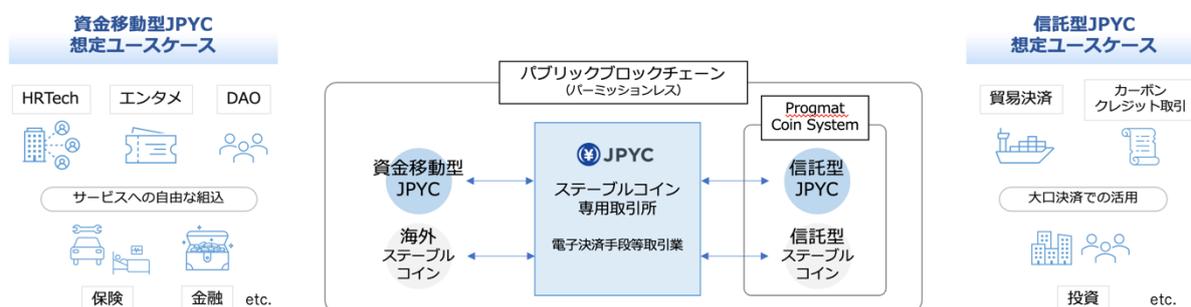
◆JPYC 株式会社について

JPYC 社は 2021 年から日本円 SC「JPYC」を発行・運営し、パブリックチェーン上で国内流通する日本円 SC として 99%以上のシェアがあります。※注 現在は前払式支払手段として発行・運営していますが、資金決済法の改正に基づき資金移動業および電子決済手段等取扱業のライセンス取得を目指しています。2023 年 11 月に三菱 UFJ 信託銀行および Progmatic と提携を発表し、「Progmatic Coin」基盤での「JPYC (信託型)」の発行を予定しています。

※注 CoinMarketCap、CoinGecko などのオンチェーン情報による推計(2024 年 4 月現在)

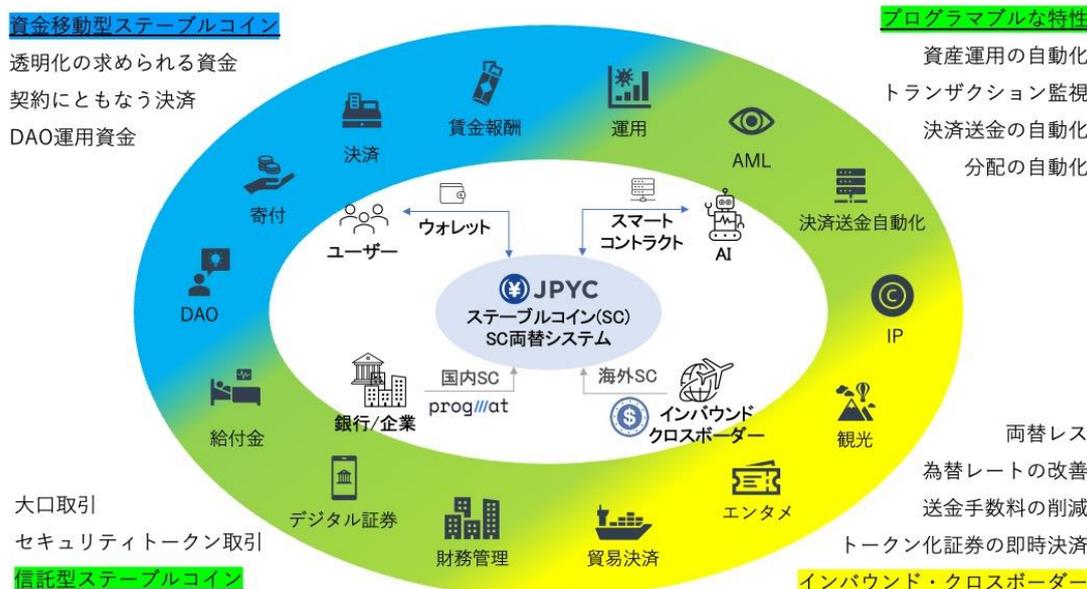
これからの事業領域

新しいステーブルコイン = 資金移動型 / 信託型電子決済手段とその仲介業



JPYC 株式会社は、ステーブルコインの特性である透明性や送金手数料の低減により、より効率的なエコシステムの構築に取り組んでまいります。

ステーブルコインによって構築可能になる、より効率的なエコシステム



ステーブルコインについての Q&A は Web に記載してありますので、以下 URL からご覧ください。

Q&A : <[https://jpyc.co.jp/news/posts/QA\\_AP](https://jpyc.co.jp/news/posts/QA_AP)>

◆KlimaDAO JAPAN 株式会社について

Web3・ブロックチェーンの技術を用いて、日本から気候変動対策を変革する会社です。グローバルで気候変動対策に取り組む「KlimaDAO」が保有する様々な革新的な技術をベースに、日本のお客様に合わせたサービス・システム開発で気候変動対策をサポートいたします。現在、カーボンクレジットをブロックチェーン上で取り引きできるマーケットプレイス「KlimaDAO JAPAN MARKET」の開発に取り組んでいます。

◆KlimaDAO について

世界的に気候変動資金の提供を加速させるというビジョンを掲げ、2021年10月に発足した DAO (Decentralized Autonomous Organization、分散型自律組織)。トークン化されたカーボンクレジットとブロックチェーンの技術スタックを組み合わせることで、市場の透明性と効率性を高めることを目指しています。

約 2500 万トンの VCS (Verified Carbon Standard、世界で最も市場に流通している民間認証クレジット) が KlimaDAO の開発したインフラを通じてブロックチェーンに移行され、150 以上の組織がこれらを利用して気候変動対策に貢献。オンチェーン上でオフセットに利用されたクレジットは 60 万トンを超えています。

Web サイト : <<https://www.klimadao.finance/>>

◆株式会社オプテージについて

1988年4月設立。独自の光ファイバーネットワークを基盤とした家庭向け光インターネットサービス「eo (イオ)」、携帯電話サービス「mineo (マイネオ)」、法人向け情報通信サービス、クラウドサービスや自社運営のデータセンターなどを提供している、関西電力 100%出資の情報通信企業です。Web3 時代も安全安心な情報通信インフラを提供すべく、2023年9月には金融機関向けにノードホスティングのトライアル提供を開始しました。